

4-3

認知症ケア

センター方式

センター方式導入とその効果について

のびのびと自分らしい生活を個別介護で

東京都板橋区立特別養護老人ホーム みどりの苑

発表者：介護職員 武田 大輔	共同研究者：介護支援専門員 山口 幸枝・高野 智行
所在地：東京都板橋区前野町5-9-3	生活相談員 村田 訓利
TEL：03-5994-5926	E-mail：midori@midorinosono.com
FAX：03-5994-5929	URL：http：www.midorinosono.com

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	平成2年開設。平成18年から板橋区指定管理者として当法人が運営をしている。 (現在一般通所定員35名認知症対応型通所介護12名×2ユニット計59名定員) 認知症ケアに力をいれており地域に根付いた関わりを大切にしている。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

- 個別ケアを行っていく上で幹となる通所介護計画が誰のものも同じような内容が多い状況で、具体的な個別ケアにつながらない状態であり、アセスメントから見直しを行った。
- 通所介護事業全体での係わりを前提とし、センター方式を学び理解を深めた。
- **〈具体的な取り組み〉**
- 平成20年5月からセンター方式に関する外部研修への参加を始めた。
- 研修参加メンバーが中心となり、センター方式導入の為に委員会を立ち上げた。(参加者：管理者、ケアマネジャー、生活相談員)
- 介護者教室を行ないご家族にもセンター方式を理解していただいた。
- 施設全体でセンター方式の理解をし、活用していく為に東京都認知症ケア地域推進員を招き研修会を行った。
- モデルケースとして2名の通所介護ご利用者の、アセスメント⇒プラン⇒モニタリングをセンター方式を活用しながら行ない、実際のケアに反映しその効果を検証した。

〈活動の成果と評価〉

- 本人主体の意見を取り入れた個別性を追求した通所介護計画を作成することができた。
- 自分自身の思いを訴えることの出来ない利用者に対し本当のニーズを理解し、関わりを持つ事ができた。
- 統一されたケアを提供することができ、ご利用者自身も混乱することが少なくなり良い表情をしている時間が増えてきた。
- ご家族とともに情報を共有していくことで互いの信頼関係を構築することができた。

〈今後の課題〉

- センター方式のシート記入や訪問面接等に時間を要することが多く、業務時間内で行うことが難しく職員への負担になった現状がある。効率性をどのように高めていくか。
- 今後、さらなるセンター方式の浸透に向けた他事業所の協力と理解を深めていくにはどうするか。

【メモ欄】